

あぐり情報

農業振興課

老川 京佑



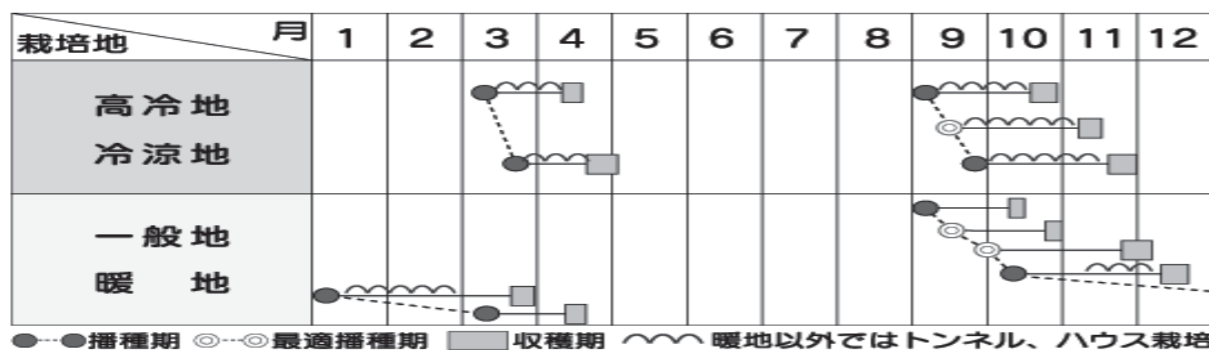
ほうれん草について

今月のアグリ情報では、管内生産者の多くの方が秋冬作付けされているほうれん草についての情報をご紹介します。8月の下旬頃から10月にかけてホウレンソウの種を購入される方が多いと思いますので、参考にして下さい。

近年販売された品種

とうかつ中央管内では、株式会社サカタのタネから販売されている種子を数多く取り扱っています。近年、同社から新品種が販売されましたので、ご紹介します。

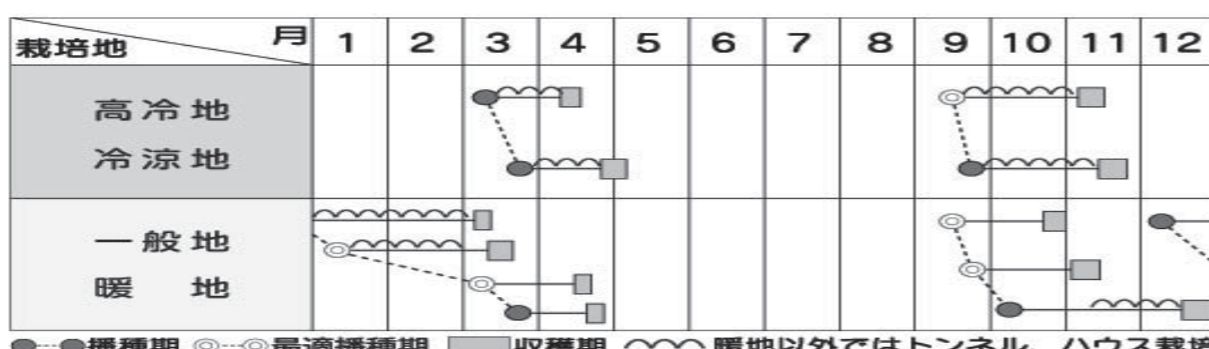
ドンキー栽培暦 (秋～早春まき)



● 播種期 ○ 最適播種期 ■ 収穫期 〰 暖地以外ではトンネル、ハウス栽培

サカタのタネホームページより

ハイドン栽培暦 (早秋～秋まき)



● 播種期 ○ 最適播種期 ■ 収穫期 〰 暖地以外ではトンネル、ハウス栽培

サカタのタネホームページより

「ゴードン」

- ・秋冬まき用 暖冬・厳冬でも適度な伸長性の多収型品種
- ① べと病 R1～9、11～16に抵抗性。
- ② 濃緑色、平滑な広葉で、葉先がややとがり、浅く欠刻が入る。
- ③ 立性で葉の絡みが少なく、葉軸がしなやかで外葉がとれやすいため、収穫作業性が優れる。
- ④ 葉枚数が多く株が充実するため、収量性が高い。
- ⑤ 比較的低温伸長性があるため、一般地・暖地、露地の9月中旬～10月上旬まき、ハウス・トンネルの10月上旬～10月下旬まきに特に適する。

「ドンキー」

- ・極濃緑の秋～早春まき用 適性が広い多収型品種
- ① べと病 R1～11、13、15、16に抵抗性。
- ② 極濃緑で光沢が強い。平滑な広葉で葉先がややとがり、浅く欠刻が入る。
- ③ 立性で隣の株との葉の絡みが少なく、軸折れもしにくいので、

「ゴードン」

- ・早春・秋まき用 在圃性・収量が優れた多収型品種
- ① べと病 R1～11、13、15、16に抵抗性がある。
- ② 濃緑、平滑な広葉で、葉先がややとがり、浅く欠刻が入る。
- ③ 立性で隣の株との葉の絡みが少なく、軸折れもしにくいので、収穫作業性が非常に優れる。
- ④ 葉枚数が多く葉軸が太くなるため、収量性が高い。
- ⑤ 中生クラスの生育速度である一方、在圃性が高く、とり遅れの恐れが少ない。
- ⑥ 一般地・暖地の9月中旬～10月上旬、1～3月上旬まきに特に適する。

「ハイドン」

- ・早春・秋まき用 在圃性・収量が優れた多収型品種
- ① べと病 R1～11、13、15、16に抵抗性がある。
- ② 濃緑、平滑な広葉で、葉先がややとがり、浅く欠刻が入る。
- ③ 立性で隣の株との葉の絡みが少なく、軸折れもしにくいので、収穫作業性が非常に優れる。
- ④ 葉枚数が多く葉軸が太くなるため、収量性が高い。
- ⑤ 中生クラスの生育速度である一方、在圃性が高くとり遅れの恐れが少ない。
- ⑥ 一般地・暖地の1～3月中旬まきおよび9月中旬～10月上旬まきに適する。

主な病害虫

「べと病」



・特徴
葉の表面に葉白色・小斑点の病斑を生じ、のちに葉の大部分が淡黄色となって枯死乾燥する。

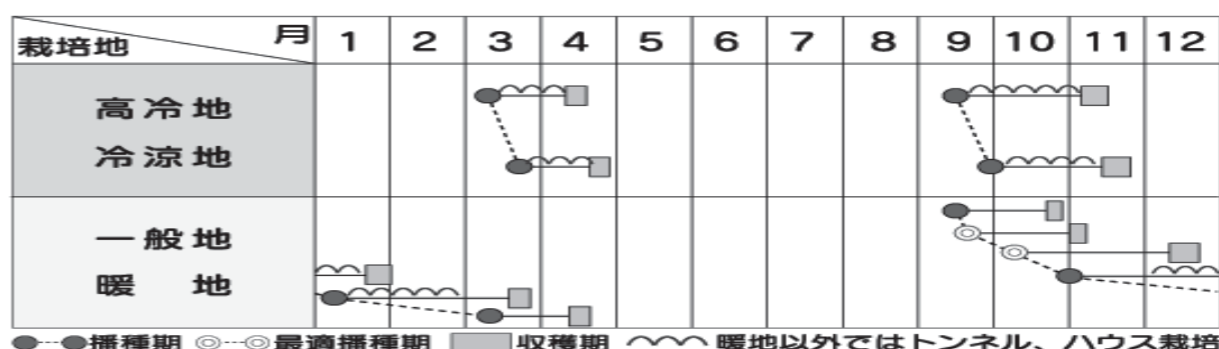
・対策

べと病は10月下旬以降発生しやすいので、抵抗性品種を利用することが望ましいです。べと病のレースは分化が起こりやすいので、多くのレースに抵抗性を有する新しい品種を作付けするといわれています。薬剤で対応する場合は、播種前の粒剤処理としてユニフォーム粒剤、本葉2～3枚時からの予防剤としてランマンFL、アリエッティ水和を使用することが一般的です。

「アブラムシ」

アブラムシは、ウイルス病の原因

ゴードン栽培暦 (秋冬まき)



● 播種期 ○ 最適播種期 ■ 収穫期 〰 暖地以外ではトンネル、ハウス栽培

サカタのタネホームページより

因になります。いずれも早期の防除が必須になります。播種時に粒剤処理としてアドマイヤー1粒剤やダントツ粒剤等を使用して下さい。農薬散布はモスピラン顆粒水溶剤やリーフガード顆粒水和剤等を使用しましょう。

「ホウレンソウケナガコナダニ」

ホウレンソウケナガコナダニの防除は、土壌消毒剤としてバスマド微粒剤、播種前に土壌混和剤としてフォース粒剤を使用して下さい。農薬散布は2葉期まではコテツフロアブル、それ以降はアフアーム乳剤やカスケード乳剤を使用しましょう。農薬散布は、早期防除に努めましょう。

農薬は正しく使用しましょう。

容器などに記載された農薬ラベルの内容に従って正しく使用してください。農薬系統の使用回数に注意しローテーション防除を心掛きましょう。

※記載されている内容は、2019年6月30日現在になります。

